



ながはま 長浜 ひろみ 議員

◆観光振興

2017年の入域観光客数が過去最高を更新しハワイを超えた、見解と課題、観光関連予算、観光客受け入れの取組みと観光統計調査の実施状況を問う。

建設部長 県は5年連続入域観光客数が過去最高を更新、要因は

官民挙げてのプロモーション活動やLCCの路線拡充、クルーズ船の寄港数増加など。課題として滞在日数をふやす、消費額を上げることである。平成30年度の当初予算は、観光ポータル、観光ARアプリシステム保守委託料142万6千円を計上。西原町観光振興計画の策定、海外交流の促進、通訳などの観光人材の育成。観光危機管理についても検討する。町では、観光統計調査は実施されていない。マリナーパーク来場者の調査は毎年行われ、観光振興計画も、年間観光客数等のデータがなく、数値目標を定められず、今後調査方法等を検討する。

◆地域包括支援センター

地域包括支援センターの委託先決定の状況を問う。

福祉部長 地域包括支援センターは地域住民の心身の健康の保持、生活の安定、介護予防ケアマネジメント業務、総合相談支援事業など地域住民の保健、医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援する。業務委託事業の指名プロポーザル募集に期限までの応募法人がなく、これまで本事業を担ってきた法人と平成30年からの受託について調整を行ったが、辞退の旨、申し出があり、西原町社会福祉協議会と調整を行い決定している。

産婦健診と新生児聴覚検査について問う。

福祉部長 産後のうつや新生児虐待予防のため、産婦健康診査事業が新規に示された。産婦健康診査を実施することは妊産婦から子育て期にわたる切れ目ない支援を図るため、産後ケア事業もあわせて今後の事業展開を検討する必要がある。今後、県内市町村で先行的に実施予定があると伺っているため、情報を検討し財政状況をみながら検討する。

◆子育て支援

の旨、説明している。また、許可の申請が土地を所有する個人から申請があり、審査の結果置場所の基準を満たしていたので、許可している。

◆シルバー人材センターの補助金削減

平成30年度予算は各種団体を初め、多くの補助金の予

きないかどうか、シルバー人材センターと検討してまいりたい。

31年度から草木のリサイクル事業も各種補助の検討をお願いしたい。

◆地産地消について

平成28年12月議会、平成29年9月議会でも、給食センターでの地産地消について質問したが、その後の取り組み状況を問う。

教育総務課長 いろいろな形で農産物を提供する方法があると思いますが、それについては教育委員



たいら まさゆき 平良 正行 議員

会というよりも、町全体での推進協議会の設立が産業観光課と協力しながらやるべき事かなというふうに教育委員会では認識している。

◆墓地、埋葬等に関する法律

墓地申請のため担当課に行くと、我謝自治会長の許可

が必要とのことだった、我謝自治会の許可をもらうよう指導した理由を問う。我謝自治会は、資材置き場で許可されたのに墓地建設という事で反対したが、町が墓地を許した理由を問う。

建設部長 西原町の墓地等の許可申請に関する事務取扱要領では、自治会長の意見同意書が添付書類となっており、申請者にはそ

算が削減され、シルバー人材センターもエコかえるくん事業150万円が削減された。残飯を利用したかえるくん事業は農家から大変喜ばれている。

建設部長 産業観光課としては次年度の補助金の加算はできなかったが、この事業で生産される液肥は農家からも大変好評のよい液肥であり、事業が何とか継続で

員との信頼関係の上に、能力を十分に発揮できる職場とは。

町長 本町の逼迫した財政事情を説明、理解してもらいながら編成作業を進めてきた。職員から積極的な提案が見受けられ、組織全体の意識改革が図られ、お互い協力、努力していく事を確認している。行政課題の情報共有、共通認識を高めていける機運は醸成できていると考えている。

総務部長 厳しい状況は続くものと考えている。平成30年度の予算編成を基準に歳出の抑制を図り、事務事業の総点検を実施し、緊急かつ効果的かどうかを見極めながら選択する。

◆財政の逼迫は国保の赤字が大きき要因

これまで西原町は値上げをせず、踏ん張ってきた。しかし一方では赤字への危機感の対応が遅れたのではないか。

町長 御指摘のとおり、国保の累積赤字をはじめ、多くの事業が山積していく中で、これを解決するために積極的な財政運営をした嫌いがあった。そうした中で、やはり身の丈に合った財政運営は

国保の赤字解消に向けてどうしても必要という認識を持つている。やはり痛みを伴う改革にもつながると思うが、町民の理解と協力を得ながら、厳しい財政状況を何としても突破していきたい。

町財政の“身の丈”って？



◆執行体制

厳しい財政状況だが、職員も同じ価値観を共有し、みずからの役割を認識し、町政の一翼を担っているという気概こそが厳しい財政状況を乗り切るすべだと思ふ。やる気と意欲が持てる職場環境づくりはとても大事だ。職



ぎま のぶこ 儀間 信子 議員

状況の身の丈にあった町政運営は必要だ。財政難の窮地だからこそ既得権益のしがらみを断ち切り事業の必要性を見直す事ができるのでは。事業の検討、縮小、思い切った歳出削減はとて

も大事。頑張っって乗り切っていたきたい。今後の事業選択は。